

10. 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの概要

平成24年度から高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とした「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業が始まり、金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請した結果「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」は採択された。全国で15拠点が採択されている。

本事業の特徴は、北陸地区における医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療（インテンシブ11コース）、③がん研究者養成（本科2コース）より構成されている。①教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

この3つのスキームのうち、本学では、1) 2) の実施を担当している。

<平成25年度の実施内容>

1. 「本科生」によるがん看護師の育成

本年度の「本科生」としての修了生は2名、入学者数は1名であった。

また、これまでの大学院でのCNSコース内容を充実させるために、「フィジカルアセスメント」「臨床生理学」「臨床薬理学」および「がん看護学実習Ⅲ」を充実させ、修了要件を26単位から38単位に増加したカリキュラムを整備し承認された。26年度からのがん看護専門看護師課程をスタートする準備を整えた。

2. インテンシブコース

「がん看護インテンシブAコース」は、平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしているまたは更新の予定の看護師やがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は、がん看護専門看護師とがん看護専門看護師受験予定者者だけを対象とした高度がん事例検討会を、7月（本学）と9月（金沢都ホテル）にて実施した。9月には、石垣靖子先生を特別コメンテーターとして招き、より専門性の高い事例検討会となった。

今年度の本コース修了者は2名である。

「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」では、インテンシブコースとして、「地域がん看護師養成コースⅠ」（大学院科目等履修）と、「地域がん看護師養成コ

ースⅡ」（修了証取得）の内容がある。修了者は7名であった。

また、潜在看護師の復職支援として地域がん看護活性化コースとして昨年度から「再就業に向けたがん看護実践サポート」を立ち上げた。本コースでは、3名が修了した。

3. 「看護実践セミナー」

今年度の「リンパ浮腫のケア～がん患者におけるリンパ浮腫の特徴と病態アセスメントに基づいた看護の実際～」では、平成25年8月24日（土）・25日（日）京都大学医学部附属病院がん看護専門看護師の井沢知子先生をお迎えして、講義と演習を行った。参加者は46名参加があった。

4. 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の開催

今年（平成25年9月8日に）石垣靖子教授と清水哲郎教授をお呼びして実施した。北陸3県（石川、富山、福井）から62名の看護師の参加があった。午前は、清水教授から「臨床倫理の考え方と検討の実際」と題した講義を事例を交えながらの説明があり、午後は、グループに分かれて2事例について倫理シートに沿って検討した。今年度は、事例検討会のあとに石垣靖子先生から「看護を語ることの意味」と題した講演をお願いした。

5. がん看護事例検討会の開催

今年度から、北陸3県（石川県、富山県、福井県）のテレビ会議システムを利用したがん看護事例検討会の実施を開始した。毎回10-12の病院からがん看護に関心のある看護師や医師、薬剤師などが一同に会して事例発表とディスカッションし、最後にがん看護専門看護師によるミニレクチャーによってがん看護に関する知識の向上に努めた。今年度は合計8回開催し、述べ915人の参加者があった。